

光ディスクアーカイブ ～光ディスクを利用した長期保存～



光ディスクの長期保存とは？

安定的に長期保存できる光ディスク（DVD、BD）を使用し、保存期間10～30年程度において、真正性及び見読性を保証できる状態で、電子化文書を保存すること。

※「JIS Z 6017（電子化文書の長期保存方法）」より一部抜粋

お持ちの光ディスクの保管状況はどうか？

- ✓ 安価な光ディスクを利用している
- ✓ 光ディスクを大量に保管している
- ✓ 光ディスクにしかない情報が存在する



一般市販の光ディスクを利用して記録した場合・・・

- ・安価な光ディスクだと短時間で読み出し不能になる場合がある
- ・保存環境によっては記録面が劣化し、読み出し不能になる場合がある
- ・市販のドライブで記録した光ディスクは記録エラーが発生しやすい

読み出し不能になった光ディスクは、データ復旧ソフトでも復旧できない場合があります！

安定したデータの長期保存を実現するために・・・

長期保存専用の「光ディスク」＋「書込みドライブ」を利用し、書込み後に品質検査(エラーレート検出)を行う事で長期的かつ安定した光ディスクの保存が可能となります。



電子化文書の長期保存について

光ディスクで長期保存するために求められること

見読性の維持

長期保存用の光ディスクと記録ドライブを用いて、必要時にデータを表示できるように定期的に保存すること

真正性の確保

証拠性を重視する場合は、誤操作・消去等を防止するため、追記形ディスクを選択し保存すること

適した環境による保存

光ディスクの記録面を傷・ほこり等から保護し、適度な温湿度・設備が整った環境で保存すること

安心して光ディスクで長期保存するには書き込み時のエラー初期値を低くすることが重要

1. ISO/IEC10995(16963)に則り寿命推定したディスクを選択
2. ディスクに記録条件を最適化したドライブを選択
3. JIS Z 6017に則った定期的な管理と運営



長期保存用光ディスクを用いて得られる効果

- ・保存環境は通常のオフィス環境で十分であり、特別な空調を必要としない
- ・マイグレーションコストや保存環境コストが低減される
- ・耐久性に優れているため、災害時に大切なデータを失うリスクが低減される
- ・定期的な品質検査を行うことで書き換え頻度を抑え、JIS Z 6017に則った管理が実現できる

「長期保存用光ディスクを用いたアーカイブガイドライン」より一部抜粋

長期保存用と市販製品の比較

光ディスク

長期保存用製品

- ・推定寿命は30年以上
- ※ISO/IEC10995等(寿命推定試験規格)にて認定
- ・傷・汚れ・ホコリに強い記録面

市販製品

- ・推定寿命は10年未満
- ・長期保存の初期特性が不満足
- ・経年劣化により読み出し速度が低下

記録ドライブ

長期保存用製品

- ・長期保存ディスクの性能を引き出す高品質記録
- ・一定記録速度による安定した低エラー記録を実現
- ・自己診断機能によりドライブの経年劣化を把握

市販製品

- ・各々のディスクに記録条件が最適とは言えない
- ・記録途中で速度を切り替えるとエラー値が増加
- ・高速度記録時の記録条件不一致によりディスク品質が低下

■お問い合わせ先

シンコー株式会社 OA事業部

本社 〒803-0802 北九州市小倉北区東港1丁目3-13

Tel (093) 581-7232

OA事務所 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通り5丁目14-12南天神ビル

Tel (092) 713-6641

価格等はニーズに合わせて個別にお見積りいたします。
詳しくはシンコー(株)OA事業部担当者までお問い合わせください。

■担当



シンコー(株)HPへ
←ジャンプします

SHINCOH